

2023年6月4日 LINEメッセージ 日本キリスト兄弟団 新下関教会

<http://olive.lovepop.jp/LINEsound/2023/20230604.mp3>

廣川和行牧師 ヨハネの福音書 15章 18節～27節

「選出された者」

10分41秒

15:18 世があなたがたを憎むなら、あなたがたよりも先にわたしを憎んだことを知っておきなさい。

15:19 もしあなたがたがこの世のものであったら、世は自分のものを愛したでしょう。しかし、あなたがたは世のものではありません。わたしが世からあなたがたを選び出したのです。そのため、世はあなたがたを憎むのです。

15:20 しもべは主人にまさるものではない、とわたしがあなたがたに言ったことばを覚えておきなさい。人々がわたしを迫害したのであれば、あなたがたも迫害します。彼らがわたしのことばを守ったのであれば、あなたがたのことばも守ります。

15:21 しかし彼らは、これらのことをすべて、わたしの名のゆえにあなたがたに対して行います。わたしを遣わされた方を知らないからです。

15:22 もしわたしが来て彼らに話さなかったら、彼らに罪はなかったでしょう。けれども今では、彼らの罪について弁解の余地はありません。

15:23 わたしを憎んでいる者は、わたしの父をも憎んでいます。

15:24 もしわたしが、ほかのだれも行ったことのないわざを、彼らの間で行わなかったら、彼らに罪はなかったでしょう。けれども今や、彼らはそのわざを見て、そのうえでわたしとわたしの父を憎みました。

15:25 これは、『彼らはゆえもなくわたしを憎んだ』と、彼らの律法に書かれていることばが成就するためです。

15:26 わたしが父のもとから遣わす助け主、すなわち、父から出る真理の御霊が来るとき、その方がわたしについて証ししてくださいます。

15:27 あなたがたも証しします。初めからわたしと一緒にいたからです。

おはようございます。

今年は少し早く梅雨に入ったようです。

各地で水害が起きているニュースがあり、心が痛みます。

皆様の日々の生活が守られますようにお祈りをいたします。

今日はヨハネの福音書 15章 18節から 27節ですがこの箇所では最後の晩餐の席でイエス様が弟子たちに

これから経験していく様々な出来事について話されているところです。

19節ではイエス様が

「もしあなたがたがこの世のものであったら、

世は自分のものを愛したでしょう。

しかし、あなたがたは世のものではありません。

わたしが世からあなたがたを選び出したのです。」と言われ、

ご自分を愛して従ってくる弟子たちが

どこに属しているのかを明らかにしています。

イエス様が言われたこの世とは、

生活をしている現実の世界のことではなく、

この世界を作られた神様の存在を否定し、

神様の主権を無視して、神様のみ旨に背いて生きていこうとする、

霊的な世界を指しています。

かつて弟子たちもこの世に属し、神様から離れた歩みをしていました。

けれどもイエス様に見出されて、

イエス様と共に歩いていく弟子として選ばれ、

キリストに属するものとなった人たちでした。

ヨハネの福音書 6章 65節で

「父が与えてくださらないかぎり、

だれもわたしのもとに来ることはできない」

とイエス様が語られたように、天の父なる神様の恵みによって、

イエス様と出会い、イエス様の愛する弟子とされたのです。

私たちも、父なる神様の深い恵みによって、
人生の途上でイエス様と出会い、
イエス様を信じ、イエス様に愛されるものとされたのですから、
この世に属するものではなく、イエス様に属するものとなったのです。
あなたは今、イエス様を信じていますか？
信じておられるなら、イエス様の約束の通りに、
あなたも私も永遠の命を今持ち、
イエス様に属するものとなっているのです。
イエス様は 19 節の最後で、
「そのため、世はあなたがたを憎むのです。」とされています。
弟子たちは、イエス様を信じる私たちは、
神様を認めず受け入れない人たちから
疎まれ憎まれると言われているのです。
18 節ではイエス様は
「世があなたがたを憎むなら、
あなたがたよりも先にわたしを憎んだことを知っておきなさい。」
とされています。
イエス様はユダヤ人に憎まれ、迫害されました。
最もイエス様に対する憎しみをあらわにしたのは、
神の戒めを厳格に守ろうとしたパリサイ人や、
神の戒めについてよく知っていた律法学者たちでした。
イエス様の語る福音の言葉が自分たちがこれまで語ってきたことを
否定するものであったからです。
イエス様は父なる神様が罪人を深く憐れんでおられることを
宣べ伝えて来られました。
放蕩息子のたとえに描かれる父なる神様の罪人に対する深い愛の心。
一匹の迷い出た羊を探し助けた羊飼いの姿の中に、
神様から離れて歩んでいる罪人を、
愛されている父なる神様がおられることを、

イエス様は解き明かされました。
また病気や悪霊に憑かれてどうすることもできなくなっていた人々を、
イエス様は病を癒し、悪霊の支配から解き放たれました。
それはヨハネの福音書 5 章 19 節に、
「子は、父がしておられることを見て行う以外には、
自分から何も行うことはできません。
すべて父がなさることを、子も同様に行うのです。」
とイエス様が語られているように、
イエス様のすべての働きはご自分から出たものではなく、
父なる神様から出たものでした。
けれどもパリサイ人や律法学者たちは、
イエス様を遣わされた父なる神様の心を知りませんでした。
彼らの関心は律法の戒めを破らないで歩むためにはどうしたらよいか、
誰彼も戒めを守る正しい人と言われるためには、
何をすべきで何をすべきではないのか
などということに関心があったのです。
父なる神様に目を向けようとせず、
また何より神様の心を知ろうとしなかったのです。
彼らが目を向けていたのは自分自身でした。
自分がどう生きるかということに最大の関心があり、
神様が何を望まれ、何を喜ばれるかということ
に対しての関心はありませんでした。
イエス様はそのことで、パリサイ人や律法学者たちを非難されました。
私たちはイエス様を信じることにより、
永遠の命を与えられイエス様に属するものとなっています。
そのことは私たちがイエス様と同じように、
この世から憎まれ迫害されることを意味しているのです。
この世は父なる神様やイエス様に敵対し続けます。
けれども神様はそれで良しとはされません。

この世がイエス様を拒み続けることがこの世の現実であり、人間の神様に対する罪の本性だとしても、なお神様はこの世に住む人々を愛して、イエス様に現わされた神様の愛を証し続けていかれるのです。

ある夫人の方はいつもご主人の救いのために祈っていました。けれども日々の歩みは厳しいものがありました。ご主人は小さな間違いをするとそれでもクリスチャンか！と言うのです。音を立ててドアを閉めると、クリスチャンがそんなドアの閉め方をしてもいいのか！と叱られるといった具合でした。小さなこと一つ一つを、それでもクリスチャンか！となじるのです。そんなご主人にも、仕事から退き、寂しさを覚えている時には、この夫人はなるべく寄り添うようにして励ましたそうです。やがて家庭集会を開くことができるようになり、数年経って、ようやくご主人が家庭集会に出席するようになりました。そしてついに、ご主人はイエス様を信じて救われたのです。ここまで来るのに実に 28 年の歳月が流れていました。

救いは私たちの側ではなく、主なる神様の時になされる業なのです。助け主である聖霊なる神様が、はっきりとイエス様について証ししていかれるのです。私たちは語られた福音の言葉を心に刻み、祈って主の御心を知って歩んでまいりましょう。そしてイエス様と共に歩み、イエス様の遣わされるところに行きましょう。イエス様が救い主であり、信じる者に永遠の命を与えられることを、聖霊なる神様によって、証ししてまいりましょう。今週の皆様の歩みが豊かに祝福されますようにお祈りをいたします。

ご在天の父なる神様、新しい朝をお与えくださり感謝をいたします。神様が私たち一人ひとりを深く憐れみ、慈しんでくださっていることを覚えて、あなたの御名を褒め称えます。先週 1 週間の守りを心から感謝いたします。私たちをこの世から選び出し、イエス様と共に歩むものとしてくださった恵みを心から感謝いたします。困難な中にもあってもイエス様と共に歩み、イエス様を証しするように私たちを導いてください。今週の兄弟姉妹の歩みを豊かに祝福し、お守りください。病を得ている方々を健やかにしてください。また試練の中にある方々を支えてくださるようお願いいたします。主イエス・キリストの恵みと、神の愛と、聖霊との親しき交わりが会衆一人一人の上に今も後も永久までも力強くあらんことを。アーメン。

